

## City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS  
で検索

## MONTHLY OF TOPICS

豊中市 ワクチン接種の出張サービス  
若年層の接種率向上に向けた取り組みも

豊中市は、新型コロナのワクチンを搭載した自動車「ワクチンカー(=キャンピングカーを改造した自動車)」で、希望するグループの指定場所まで出張する取り組みをはじめた。また若年層に向けて、各市様々な施策がはじまった。

新型コロナウイルスワクチン接種の加速化と、幅広い層に接種の機会をつくるため、ワクチンカーでの出張接種を開始した。接種を希望する24人が集まれば、そのグループが指定した場所に医師や看護師が乗るキャンピングカーを市が派遣する。自治会など地域の集まりや友人同士、子ども会のような保護者のグループからなどの申し込みを想定した取り組みだ。車内にはベッドも用意され、接種後に気分が悪くなった人は車内で休むこともできる。

対象者は24人以上の団体で、それ以上は6の倍数(日程により最大84人まで)、12歳以上の未接種者とし、豊中市の接種券を持っていることが条件だ。また駐車場や健康観察場所などは申し込み者で用意する必要がある。ワクチンはファイザー社製を用い、実施期間は9月13日(月)～11月30日(火)のうち24日間としている。詳細や申し込みは豊中市

のホームページから確認できる。

接種予約を代行する  
ワクチンコンシェルジュ

豊中市はワクチン接種できる医療機関を代理で探す「ワクチン・コンシェルジュ」を9月1日から受け付けている(定員に達し次第終了)。接種を希望する地域や日時など市民が登録した情報を基に、条件に合う取り扱い医療機関を探して予約を代行。医療機関で余剰ワクチンが生じた場合にも、希望者へ接種を案内する。実施当初の対象年齢は35歳から49歳とし、接種状況に応じて対象を拡大する。

働く世代向けに  
「ワクチンフライデー」

現在、コロナ感染で猛威を振るう変異株は感染力が高く、ワクチン接種率の低い若年層を中心に拡大している。また重症化のリスクも高いことから、若年層への



ワクチン接種は急務であると考えられる。このような課題に対し豊中市は、若年者層へのワクチン接種を促進するため、3つの施策を開始した。一つ目の「ワクチンフライデー」は仕事で平日昼間に医療機関での接種を受けることが難しい社会人に向け、金曜日の夜と土曜日の午前中に市役所でのワクチン接種を実施。二つ目は受験や課外活動等に備え10歳代専用の予約枠を設け、土曜日の午後市役所などで接種を行う「ワクチンU-19」。三つ目は副反応に不安を感じている子育て中の親に向け、一時保育が無料で利用できる「ワクチン一時保育」だ。

また、豊中市ではワクチン接種済みの市民に対し、10月から申し込みを開始するプレミアム付き商品券(デジタル商品券のみ)へのプレミアム率を上乗せする。一口4,500円のプレミアム商品券が、通常では6,000円の買い物ができるが、ワ

クチン接種済みの場合は7,000円の買い物ができるなどの特典を付け、接種率の向上を目指す取り組みをスタートさせた。

吹田市は若年層向けに  
1万人の接種会場を新設

吹田市でも、若年者層へのワクチン接種促進に新たに集団接種会場の開設を決定した。働く世代の多い若年層を想定し、土日祝に予約接種ができるよう受け入れ態勢を整え、約1万人分の枠を設けるなど、若年層のワクチン接種率を加速させる取り組みだ。会場は南千里クリスタルホテル(阪急南千里駅)、日程は接種1回目を9/18(土)～9/28(火)、10/2(土)、10/4(月)～10/10(日)とし、2回目は4週間後の同曜日を自動手に予約。吹田市の接種券をもつ16歳から39歳までが対象だ。

## SOCIAL

吹田市 キャッシュレス決済で  
ポイント還元率最大30% 12月1日から

吹田市は、12月1日からキャッシュレス決済ポイント還元事業「市内対象店舗(中小企業)での買い物等キャッシュレス決済でポイント還元率最大30%」を実施する予定だ。

市内対象店舗で購入すると、キャッシュレス決済利用者にポイントの還元を行うもので、新型コロナの影響を受ける市内の中小規模店舗での消費の喚起と、非接触型キャッシュレス決済の普及促進の2つを目的としている。

同様のキャッシュレス決済還元キャンペーンは、日本全国の多くの自治体で実施されているが、還元率30%はかなり高い。

新型コロナウイルスの感染拡大等、状況により変更する可能性があるとのことだが、期間は12月1日(水)～12月31日(金)としている。

1決済あたりの付与上限は2,000円相当で、1ヵ月あたりの付与合計上限は5,000円相当(1決済事業者あたり)。つまり1決済、最大約6,600円の買い物で約2,000円分のポイントが還元され、1ヵ月で最大約16,500円の決済で約5,000円分のポイントが還元されるということだ。



予算額は15億3520万3千円とされており、達し次第終了される。

対象店舗は市内のキャッシュレス決済取扱店のうち、市が指定する中小規模店舗(3千店舗以上の見込み)で、吹田市民でなくとも対象店舗においてキャッシュレス決済サービスを利用すれば還元の対象となる。決済事業者は複数選定する予定だ。市の担当者は「年末商戦に向けて消費喚起を促したい。コロナに苦しむ中小規模店舗の皆様に、非接触で支払いが完結する決済のメリットを感じてもらえれば」と話す。対象店舗・決済事業者等の詳細は後日市のホームページで公開される。

また豊中市では、今年7月、8月の2ヵ月にわたりキャッシュレス決済ポイント還元事業が実施された。12月からはプレミアム付商品券を発行するとし、さらに地元での消費の喚起を促す狙いだ。

## SOCIAL

吹田市 10月から市立小学校の  
給食費を無償化、中学校は半額

吹田市は、市議会9月定例会において、一般会計総事業費約30億円の補正予算案を提出する。長引く新型コロナによる市民生活への影響に対応する内容となっている。

その中の一つが給食費の無償化だ。同市は子育て世帯の家計への負担軽減と生活支援を図るため、市立小学校の給食費の無償化の実施を決定した。中学校は半額としている。

期間は10月から来年3月までで所得制限は設けない。予算額は5億5102万円で、一人当たり最大24,000円程度の軽減となる。なお同市では、令和2年6月から令和3年3月の期間、同事業を実施していた。

電子書籍3万点の  
貸し出しも実施

ほかに電子書籍コンテンツが1千点から3万点に拡充する施策も盛り込んだ。コロナ禍による外出自粛の影響で図書館に来館できない利用者が多い中、自宅などでも図書館の貸出サービスを受けられるよう、同市では今年7月から約1000点分の

コンテンツ数でスタートしていたが、想定以上に利用が増えたため、約3万点の拡充を決定した。

学習コンテンツの利用が多い傾向にあることから、語学学習、資格取得等のコンテンツを充実させるとしている。「外出自粛のコロナ禍においても、電子図書により図書館の利用を促進することができればと思います。コンテンツを充実させ、子どもの在宅学習をはじめ、あらゆる世代に活用してもらいたい」と市の担当者は話す。

利用方法は、市内在住者か市内の事業所や学校に通学しており、借出カードを登録すれば利用できる。専用Webページのログイン欄に利用者ID・パスワードを入力してログインする。貸し出し点数は3点までで期間は2週間。予約もできる。

